



Newsletter

No.86

2021年3月5日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

## コロナ禍でも工夫こらして運動を広げよう！ — 21年目に入った「レイバーネット日本」 —

コロナ禍の中で、あらゆる分野で大きな変化が押しよせています。レイバーネットでは、昨年7月のレイバー映画祭はやむなく中止しましたが、12月26日のレイバーフェスタは何とか実施することができました。でもヒヤヒヤだったのです。じつは会場の「田町交通会館」でフェスタ前日に感染者が出て、消毒のためエレベーターが使えないという事態が発生しました。そのため参加者は6階まで階段で昇り降りするという「苦行」になりました。しかし内容的にはこれまで「最高の出来」でやってよかったです。また新たな試みのオンライン配信にも海外を含め50人が集い、会場とあわせて200人のフェスタとなりました。

オンライン会議が増えて、確かにコロナ禍の活動はやりにくいですが、そこを逆手にとって、さまざまな工夫を凝らして新しい運動をつくっていきたいと思います。ブッククラブもオンライン読書会になりましたが、逆に参加者が全国に広がり、新たなネットワークがうまれています。

2000年2月に「はたらくものの情報ネットワーク」として発足した「レイバーネット」も早や、21年になります。会員は現在560人ですが、近年、亡くなる方も増えてきました。去年は運営委員だった岩川保久さん(58歳/心臓発作)、木下昌明さん(82歳/直腸がん)が亡くなりました。高齢化がすすむレイバーネットですが、数年前の総会では「シニアからミドルへ」をスローガンに世代交代の方針を打ち出しています。少しずつ変化の兆しがありますが、なによりよかったのは、女性の比重がとて高くなったことです。

2021年は総選挙があります。「アベスガ」政治を終わらせ、時代を変えるために奮闘しましょう。木下昌明さんの「座右の銘」は「人生で一番大事なことは成功することではなく歩むことだ」(世界一貧しい大統領・ムヒカの言葉)です。亡くなった人の志を引き継いで、今年も一歩一歩しっかり歩んでいきたいものです。(松原明/共同代表)

### ●筋トレつきで忘れられないイベント～レイバーフェスタ感想

客席で堪能させていただきました。参加者数の心配やらオンライン配信やら、とどめにコロナ関係で田町交通ビルのエレベーターが使えないという、今年にふさわしく？てんやわんやではありましたが、2020一年を締め括る素晴らしい内容でした。パチパチパチパチ。



ドキュメンタリー映画『雄叫び一気候変動へのたたかい』環境問題に取り組む活動の仕方が示唆に富んでいて、得ることいっぱい。大変さ苦しさだけでなく楽しさ、連帯感、充実感が伝わってきて、困難な闘いがしっかり映っていたのに人間っていいなあと力がわきました。

毎回愉しみなジョニーさんの歌や乱さんの川柳コーナーは、サスガ定番の安定感と落ち着きがあり、ホッと和む時間。川口真由美さんシャウトシャウトの迫力ある歌と話は、会場みんなに一体感がわいて、心に響きました(写真)。

そして、レイバーフェスタの真骨頂、映像トークと3分ビデオは、他ではけっして見られない個性的でバラエティーに富んだ作品ばかり。作品以上に個性的な作者や出演者の言葉が聞け顔が見られるのも、私がレイバーフェスタが気に入って足を運ぶ理由です。

フェスタを作り上げ関わった皆さまに本当に感謝です。会場の6階まで機材や物品を運び上げるのも苦労されたと思います。今回は観客も、階段を上り下りする筋トレつきで、忘れられないイベントとなりました～(高橋峰子)

\*ドキュメンタリー映画『雄叫び一気候変動へのたたかい』を貸し出します。ぜひご活用ください。

## レイバーネット総会 2021 のご案内

今年のレイバーネット総会は、3月13日(土) 午後13時～15時 開催します。場所は、移転したばかりの「スペースたんぼぼ」です。

・3月13日(土) 午後、スペースたんぼぼ  
(水道橋西口5分 TEL03-3238-9035)

13.00 開場

13時半～15時 [第一部] 総会

経過報告、会計報告、各部からの報告、人事、ディスカッションなど

15.15 - 17.00 [第二部] 特別企画「コロナ禍で激変する労働現場—その実態と今後の課題」

メイン講演=渡辺寛人 NPO 法人 POSSE 事務局長

「実態、問題点」(40分)

サブ報告=伊藤彰信「非正規労働運動の課題」(20分)

ディスカッション=45分 司会=北健一

参加費 500円(会員無料)

\*第一部は会員は「オンライン参加」可。第二部はYouTube配信予定。

<会費納入・カンパのお願い>

あなたの会費の納入状況は封筒宛名のところに「〇〇年〇月」と記されています。「〇〇年〇月」まで会費が支払い済という意味です。

< 2 p 下段へ続く >

各プロジェクト活動報告

<レイバーネット TV>

たんぽぽ舎「サテライトスタジオ」でスタート

今年のレイバーネット TV は、いつもより早く 2 月からスタートしました。第 156 号放送は、2 月 17 日、引っ越したばかりのたんぽぽ舎でした。放



送は、間取りの都合で大きな「スペースたんぽぽ」ではなく、小さなスペースの「サテライトスタジオ」を実験的に使用しました。道路に面しているので「街頭テレビ」に近い感覚です。今回の特集は、たんぽぽ舎にふさわしい「フクシマから 10 年一終わらせてはいけない真実」でした。新聞取材からはずされた朝日新聞の青木美希さんは、それでもあきらめることなく個人で取材を続け、フクシマの真実を掘りおこしています。新刊もまもなく発刊します。また大阪に母子避難している森松明希子さんは、世間のバッシングに負けずに、自身の体験から見えてきたことを語り、共感を呼びました。たんぽぽ舎の柳田真さんを含め、マスコミでは知ることのできない特集になりました。

月に 1 回（第三水曜日）のレイバーネット TV。3 月 17 日の 157 号は水道橋の「カフェ梨の木舎」からの放送を予定しています。特集は、「やりがい搾取・パワハラに声を上げた若者たち」（仮）でいまホットな労働問題を取り上げます。レイバーネット TV はみんなで作るメディア。企画・技術・取材をはじめスタッフを募集しています。ぜひあなたも加わりませんか。

<レイバーシネクラブ>

『ジョニーは戦場へ行った』を観てディスカッションしよう

昨年末のレイバーネットテレビで、映画特集を放送した。「今年の本」のアンケートを行ったところ、集まる集まる。番組では永田浩三さんと共に『はりぼて』『スパイの妻』『マルモイ』『異端の鳥』などを取り上げたが、世界中が感染症で覆われる中で、よくぞ素晴らしい映画が続々と誕生するものだった。年明け早々には『大コメ騒動』が公開されたが、これぞ日本の誇るべき民衆運動。女た

ちの闘いに気持ちが晴れ晴れした。あらためて思う。木下昌明さんも言っていたとおり、コロナ禍を理由に文化の灯を絶やしてはいけな。だってこんなに勇気を与えてくれるものだから。シネクラブはしばらく開店休業していたが、3 月から復活しますよ。第一弾は 3 月 14 日（日）、取り上げるのは、反戦映画の名作『ジョニーは戦場へ行った』（米国映画／ダルトン・トランボ監督）です。午後 2 時、郵政共同センターで行います。なお今回はオンラインでも参加できます。（堀切さとみ）

<あるくラジオ>

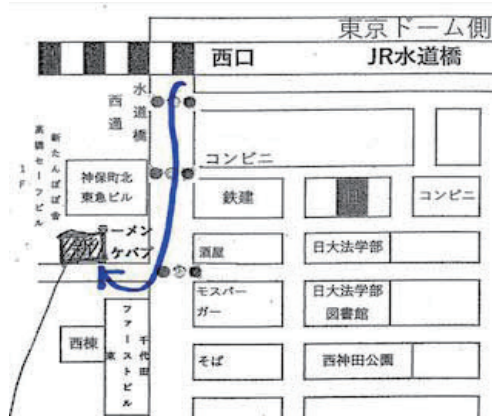
一生懸命生きて変えようとする人、続々登場

2018 年に出発した「あるくラジオ」。昨年の緊急事態宣言時に一時中断しましたが、今年 1 月には森健一さん（国鉄闘争研究者）をゲストに第 14 回を放送することができました。番組発足当初からの、有名・無名を問わず一生懸命生きて社会を変えようとしている人の話を聞きたい、パワーをもらいたいという思いは変わりません。昨年 6 月の乱鬼龍さんの回は、乱さんのダジャレが爆発。戦争を止められなかった親への問いが、乱さんの今につながったお話も聞くことができました。8 月の木下昌明さんの回は、12 月に亡くなった木下さんの生前の元気な声を聞く最後の機会になりました。次回 3 月 26 日（金）2 時～は、フランスの環境保護運動を描いた『雄叫び』（昨年のレイバーフェスタで上映）を紹介・翻訳した根岸恵子さんをゲストにお迎えます。根岸さんは、731 部隊の被害者支援活動のほか、水彩画も描くなど多方面で活躍しています。また次々回には、2 月に「君が代」不起立訴訟で勝利が確定した根津公子さんを予定しています。お楽しみに。（佐々木有美）

<1 p 下段より続き>

年会費は A 会員 3000 円、B 会員 5000 円です。B 会員はレイバーネット TV が始まってから財政負担が増えたので作りました。A も B も基本的に同じ扱いですが、B 会員が増えれば財政的に助かります。昨年のレイバーフェスタでは会場費の予定外の大幅値上げがあり、フェスタは赤字決算の見込みになりました。レイバーネットの活動拡大のためにも、ぜひ会費の納入・カンパをよろしくお願いします。同封の振替用紙をご利用ください。（事務局）

たんぽぽ舎新事務所



# 映画評論家・木下昌明さんを悼む

東 洋志 (『月刊東京』編集委員)

\*以下は『月刊東京』420号からの抜粋。8章にわたる全体の終わりの2章を紹介する。

## <脱原発デモ、安保法制反対運動のなかで>

2011年以降に脱原発デモ、2015年には安保法制反対運動が展開され、国会前のデモの高揚、シールズの活躍が見られた。木下さんは、刻々と変化する運動の現場を自らビデオ映像に記録し発信した。彼は批評家と同時に、映像の創り手となった。ガンとの闘病生活も含めて、状況に身を挺してコミットすることによって、より深く現実に肉薄したのだ。多様な諸階層、年代の人々の姿を、生活の視点から活写し、文章にも残した。そこには一人一人が自分の言葉を発する運動への共感があった。木下さんの関心は、転形期に生きる人々のドラマだったのではなかろうか。そして、それをペンとカメラで表現することで、新たな運動を社会化することに参与したのだ。この時期、国会前に自転車に乗る文化活動家・木下さんの姿が見られた。彼はデモの運動思想に共感、70年闘争との違いを非暴力思想に読みとる。敗北のなかから継承される民衆運動への歴史的想像力を研ぎ澄ませていったのではないか。

著書『ペンとカメラ』では、こうした社会運動の高揚から野党共闘に至る歴史のうねりが、選挙に関するドキュメンタリー批評をとおしてとらえられている。デモ、直接行動から、政治変革へー生活者の思いと行動の凝視によって、この胎動を読みとっている点に注目したい。

晩年、木下さんは映像文化の変化に対応した文化

運動の形を追求しようとした。

3分ビデオを現代的な「労働者通信運動」と位置づけ、労働者の主体形成の契機として重視するようになった。文化運動イメージと映像の技術革新の波がクロスしたのである。この論点は、さらに掘り下げる必要があると思う。

## <文化活動家として>

木下さんは、毎月『月刊東京』を10数部、一筆そえて友人たちに郵送していた。その多くは彼の数十年の文化運動の仲間たちだった。私に自筆の封書を指して「読者の組織化だ」と語っていた。仲間からの感想は彼の批評活動の原動力だった。木下さんは討論の場の組織者でもあった。少しなまった口調で「デスカッションが大事だ」とよく語っていた。私はこの語り合う「仲間」の輪を次世代にまで広げることが、木下さんの志を引き継ぐ一つの営みだと思う。

木下さん、自らの生き方を刻んだその文章を読んで、あなたと再会できた。これからも、想像の世界で、木下さんが好きだった高田馬場の地下の喫茶店で語り合いたい。心から、ありがとうございました。



## ● VIDEO ACT! が「木下昌明」追悼上映会～3分ビデオ全作品

2020年12月6日未明、惜しくも亡くなった映画批評家の木下昌明さん。享年82歳。木下さんは、直腸がんと前立腺がんを抱えながらも映画批評を続け、7冊の著書を発表。そして、2003年より3分間ビデオ『娘の時間』『息子の場合』『三分間の履歴書』『育てる』など、数々の名作を発表してきた。ペンとカメラを手に、世の中と向き合い続けた木下さん。木下さんを追悼し、彼が遺した3分間ビデオ全作品群を『映画批評家の冒険』と題して一本化し、上映する。

3月30日(火)18.30、東京ボランティアセンター。500円、予約制、045-228-7996 (ローポジション気付)

・上映作品『映画批評家の冒険 木下昌明 3分間ビデオ全作品 2003～2018』

・作品タイトル及び制作年度

「娘の時間」(2003)

「続・娘の時間」(2004)

「息子の場合」(2005)

「三分間の履歴書」(2006)

「木下家その後」(2007)

「自転車通勤」(2008)

「沖縄観光」(2009)

「映画批評」(2010)

「赤き狼」(2012)「育てる」(2013)

「がん わたしの選択」(2014)

「それからの息子」(2015)

「2年前のこと」(2017)

「おしどりマコ出馬宣言」(2018)

+「追悼 木下昌明さん」(2020・松原明)



## 新会員紹介

### ●あきらめず少しでも抗っていききたい 小泉雅英

生まれ育ったのは大阪。海側のNという町で、安治川が大阪湾に注ぐ河口に近いところだった。その町のことを書くだけで、いくつもの物語となりそうだが、鉄工所など町工場や、多くの商店があり、木造住宅が密集、路地も多かった。安治川の荷役労働者、工場労働者、職人、商店の労働者など、多様な人々が住んでいた。日本人、朝鮮人、台湾人、沖縄人がそこで暮らしていた。

1968年春、上京後、月刊誌の編集、広告代理店の営業など正社員として20年余り勤めた後、編集などを中心に契約仕事をしてきた。4年前から、昼間はマンション管理員として勤務し、夜は在宅で編集関連と、通信教育の添削を請負っている。いつも仕事に追われ、好きな映画や、各種集会に参加するのは、ままたらない。数年前から年金も入っているが、家賃を払い家族3人暮らすにはとても足りず、別の収入が不可欠というのが現実なのだ。仕事は続けたいが、労働時間が少なくても生活できれば良いな、というのが率直な思い。

レイバーネットは、以前の「民衆のメディア連絡会」会員だったので、創設時から知っているが、つい最近まで参加する機会がなかった。その間に松原さんには、いろんな場面でお世話になった。今回、縁あって入会し、新しい世界を開くことになった。これまでいろんな活動に参加し、国家権力の暴力も経験した。自分なりにやれることをやってきたつもりだが、社会の現実はいよいよ悪くなるばかりで、無力感が強い。すでに高齢者となり、何もできないが、それでも、残された人生、あきらめず、少しでも抗い、活動していきたくて願っている。

以下に自らのことも含めて書いた。ご参照いただければ幸い。「三里塚裁判闘争の現在」(筆名：坂口四郎)、『新日本文学』1980年1月号「十・八の衝撃」(『かつて10・8羽田闘争があった [寄稿編]』合同フォレスト2017年)「日本新左翼の失敗は何だったのか」(『季刊ピープルズ・プラン』86号2019年)。

## INFORMATION

### ●小さなメディアの大きな役割

2月20日にレイバーネットウェブサイトで配信した記事(写真)が大反響だ。それは根津公子さんのレポートで、最高裁が「停職処分6月取り消し」の高裁判決を維持した、という内容。記事の「おすすめ」がなんと3500も付いた。「おすすめ」をクリックできるのはFBをやっている人で、拡散した人が3500人いるという意味だ。ふつうでも100付けばいいほうで、今回は最高の数字ではないか。その理由がわかったのは数日後。最高裁が「君が

代処分」で都教委のやり過ぎを認定した重要な「判決」だったが、大手マスコミはベタ記事でほとんど無視したからだった。大事なニュースだが、きちんの報道したのはレイバーネットだけ。それでアクセスが極端に増えたのだ。レイバーネットTVでも「マスコミがやらないできないテーマ」にこだわってきたが、ますますその必要性を実感した。



### ●韓国サンケン労組の闘いに支援・連帯を!

1月20日、韓国サンケンの廃業・全員解雇に反撃し、労組のキム・ウニョン副支会長とオ・ヘジン支会長が髪の毛をそり落としました。「闇は光に勝てない! 私たちは絶対にあきらめない!」と書かれた横断幕の前で、ウニョンさんは日本から送られた赤い檄布を身にまとい、ヘジンさんは韓国サンケン支会の旗をまとって決意を示しました。

埼玉県新座市に本社があるサンケン電気は、1973年韓国の馬山自由貿易地域に100%子会社の韓国サンケンを設立し、様々な税制優遇措置など受け利益を上げてきました。しかし1996年に労働組合が民主労総に加盟するや、組合潰しを始めました。インドネシアへの移転策動、合理化、リストラなど、4年前には組合員全員に対し整理解雇を行いました。

しかしその都度労組は不屈に闘い職場を維持し、解雇を撤回させてきました。今回コロナで労組が日本に来られないことを機に、



サンケン電気は昨年7月9日、いきなり会社のホームページに韓国サンケンの会社解散を発表しました。会社ごと潰そうと!(尾澤邦子)

→ハガキ・抗議文をサンケン電気に送ろう!  
埼玉県新座市北野3-6-3 サンケン電気(株)  
和田節社長宛

## レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数 560名

ウェブアクセス 1日 6,000

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円

(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本

銀行口座 きらぼし銀行 小竹向原出張所

普通 5002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org

電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578